

# スタインウェイピアノと同じように 演奏もいろいろ個性があるから 面白いのだと思います。

スタインウェイ・ジャパン(株)  
代表取締役社長 後藤一宏さんに訊く



STEINWAY & SONS

第1回  
スタインウェイ・コンクール in Japan  
The 1st Steinway Competition in Japan

100年以上の長い歴史を誇り、さまざまな形でピアノ音楽における高い水準を築き、世界中で愛用されてきたスタインウェイ・コンペティションは、ヨーロッパ各国で実施されている。日本でも初めて開催いたします。

申込要員会

2011年  
10月15日(土)・16日(日)  
会場 (株)松尾楽器商会・西武池袋店  
10月22日(土)・23日(日)  
会場 (株)名古屋ピアノ調音センター  
10月29日(土)・30日(日)  
会場 (株)神楽坂音楽・札幌ショールーム  
11月5日(土)・6日(日)  
会場 (株)美純ピアノ社  
11月19日(土)・20日(日)  
会場 (株)楽通社・オーパスクラブ  
11月26日(土)・27日(日)  
会場 (株)松尾楽器商会・本店

※ 要  
2012年4月1日(日)  
東京 王子ホール

ドイツのハンブルクで一九三六  
年に、そしてベルリンでも一九五  
三年に始まり、現在世界八カ国で  
行なわれている「スタインウェイ  
・コンクール」が、この度日本  
でも開催されることとなった。地  
区審査会、本選とも、スタインウ  
エイのグランドピアノで演奏する  
ことができるのが魅力で、本選か  
ら選出される一名には、特典とし  
てドイツ・ハンブルクに招待され、  
各国の優勝者たちと共に演奏する  
機会が与えられる。

このコンクールを主宰するスタ  
インウェイ・ジャパン(株)の代表  
取締役社長である後藤一宏氏と、  
コミュニケーション・マネージャ  
ーの秋田文字さんに、コンクール  
の狙い等を伺った。

『みんなの前で弾いてみたい』  
という子どもを増やしたい

後藤 「スタインウェイ・コンク  
ールは、一言で言えば、子どもの  
ためのアマチュア・コンクールで  
す。なので、『才能発掘・育成』が

第一義的な目的ではありません。  
私たちが目指しているイメージ  
は、正にボスターの写真のような  
雰囲気、アットホームな感じな  
んです。

このコンクールはブランド・マ  
ーケティングの一環として行なわ  
れますから、コンクールの趣旨や  
運営は本場と同じにする必要があ  
るのですが、ドイツで行なわれて  
いるスタインウェイ・コンクール  
は、小さな街のスタインウェイ直  
営店のホールで行なわれる、こじ  
んまりとしたコンクールなのです。  
地元の子どもたちが、近所でコン  
クールをやっているから受けてみ  
よう、人前で発表できる機会だか  
ら参加しよう、という感じですが、

もっと参加者の門を広げて、ま  
ずは『みんなの前で弾いてみたい  
な』という子どもを増やすことが  
狙いです。やはり演奏家というの  
は、人前で演奏して批判、評価さ  
れて初めて演奏家になるのだと思  
います。ですから、小さい子なが  
らにも、人前で演奏する機会をな  
るべく多く提供したいと考えてい



るのです。そしてそれが、次の楽しみに繋がっていくようなものになればいいと。

また、うちの社員にしても、ご協力いただくディレラーさんにしても、このコンクールの専任がいるわけではありません。予選も、自分のホールを持っているディレラーさんの所で行ないますし、そういう意味で、素人集団による『手作りのコンクール』なのです。行なうからには、もちろん一所懸命やりますが、プロフェッショナルに組織立ったコンクールは目指していないのです。

日本には立派なコンクールがたくさんあり、とても盛んですから、

コンクールを行なうとなると『スライムウェイもとうとう事業として参入するのか』と大袈裟に取られてしまいがちなのですが、決してそうではないことをご理解いただきたいと思います。」

## ピアノを使つていかに表現しようかという気持ちが大事

秋田「例えば演奏曲の所を見ていただくと、まるで曖昧、演奏時間の制限しかないの、みなさん驚かれます。『課題曲は？何を弾けばいいの？』と。実際、ディレラーさんの所に問い合わせがたくさん来るそうです。

時々、テクニク的にちゃんと弾けても、何を弾きたいのか、何が表現したいのか、そういうものが伝わらない演奏を見かけます。

このコンクールでは、何を選んで演奏するかも含め、自分の意志で弾きたい曲を、自分が弾きたいように演奏するのを見たいと思っています。」

後藤「そう。その人の持つている音楽性、ピアノを使つていかに

表現しているかという気持ちの発露、これを一番に評価したいのです。

正確にきちつと弾けるということとは大事ですが、*p*や*sfz*を朗々と歌って聴かせる曲を選択してもよいと思います。

スタインウェイピアノの良さというの、サステインの長さにあります。音の延びが長いんですね。

スタインウェイピアノは、丈夫な一体成形リム（アウトリムとインナーリムとを同時にプレスする、スタインウェイ独自のピアノ製法）と、中の弦の張力の弱さが特徴ですが、張力が弱いと、長く保つ豊かな響きが得られます。

そして、サステインが長いということとは、歌うのに最も適しているのです。スタインウェイのピアノを使つてスタインウェイのコンクールを行なうのであれば、ちょっと歌い過ぎていても、そういうピアノの特徴を活かした、歌う人を評価したいなと思うのです。

もちろんテクニクも大事ですが、それだけになって欲しくないということですね。

今回お願いしている審査員（本選）の先生三名のうち、お二人は演奏家で、古くからスタインウェイのピアノを弾かれていますので、ピアノの特徴はよくご存知でしょうし、このコンクールの趣旨もご理解いただいております。」

## スタインウェイだからこそできるコンクールを

後藤「現在、国内外の主要ホールにはスタインウェイピアノが導入され、九割以上の演奏家がスタインウェイピアノで演奏会を開催しています。そんなスタインウェイだからできること……それは、子どもたちにスタインウェイピアノに早くから慣れてもらうこと（知ってもらうこと）だと考えます。

さまざまピアノがご自宅で使われていると思いますが、発表会に出た時とか、音高・音大を受験する時など、いずれはスタインウェイのピアノに出会うことになりました。ならば、小さい頃からそれに触れる機会が多ければ多い程良いと思うのです。タッチにしても

第1回  
スタインウェイ・コンクール in Japan

応募年齢カテゴリー：※国籍は不問。ただし日本居住  
A=2004年4月2日～2007年4月1日生まれ  
B=2001年4月2日～2004年4月1日生まれ  
C=1998年4月2日～2001年4月1日生まれ  
D=1995年4月2日～1998年4月1日生まれ

日程・会場：

【地区審査会】2011年

以下のスタインウェイ・ディーラーで開催。  
1会場のみに参加。

- 西宮：10月15日(土)・16日(日)  
(株)松尾楽器商会・西宮北口店  
TEL.0798-68-0160
- 名古屋：10月22日(土)・23日(日)  
(株)名古屋ピアノ調律センター  
TEL.052-802-1155
- 札幌：10月29日(土)・30日(日)  
(株)井関楽器・札幌ショールーム  
TEL.011-214-8833
- 広島：11月5日(土)・6日(日)  
(株)浜松ピアノ社 TEL.082-247-0006
- 高知：11月19日(土)・20日(日)  
(株)楽器堂・オーバスクラブ内ライラホール  
TEL.088-802-2555
- 東京：11月26日(土)・27日(日)  
(株)松尾楽器商会・本店 TEL.03-3539-1711

【本選】一般公開

- 東京：2012年4月1日(日) 王子ホール

地区審査会での演奏曲：

既に発表されている曲で(初演は不可)、演奏者の表現力が判断できるもの。古典派、ロマン派、20世紀の楽曲から選択。2曲用意し、2曲とも演奏する。年齢カテゴリーごとの時間は次のとおり。

- A=1曲につき3分まで。  
入退場を含め6分を超えない。
- B=1曲につき4分まで。  
入退場を含め8分を超えない
- C=1曲につき5分まで。  
入退場を含め10分を超えない。
- D=1曲につき7分まで。  
入退場を含め14分を超えない。

参加費：地区審査会=¥5,000 本選=¥10,000

審査員：神谷郁代(ピアニスト、元京都市立芸術大学教授)  
(本選) 田部京子(ピアニスト、上野学園大学教授)  
寺西基之(音楽評論家)

要項：下記HPを参照  
www.steinway.co.jp

応募方法：参加申込書を下記HPから入手し、記入。  
以下の期間中に郵送。

応募締切：2011年8月1日(必着)

問合せ：上記の地区審査会の各会場か、下記まで。  
スタインウェイ・ジャパン(株)  
competition@steinway.co.jp

音にしても、『ピアノってそれぞれ違いがあるんだ』と気づくきっかけになれば……。  
特に、スタインウェイピアノは、一台一台が全く異なります。狙っているわけではなく、同じ様に作ろうとしても、同じには仕上がらないのです。手作りの部分が多いですし、何チームかに分かれて一台を作り上げていきますから。もちろん、整音師が最終的な音のチェックは行ないますが、ピアノの音にはそれぞれ個性がありますし、

それが当たり前なのです。ヨーロッパのメーカーは本当に面白いですよ。人づてに聞いた話ですが、克蘭ポソンのクラリネットの話をしませう。過去にロベール・カレという名工がいて、日本の技術者が研修で工場に行つて検品をした時のことです。それぞれの楽器の音にばらつきがあるので、『揃えないのか?』と質問したところ、カレは『揃えたら買う人の選ぶ楽しみがなくなるじゃない?』と答えたんです。ちょ

つとずつ違つた方がいい。演奏者は、背の高さも、手の大きさも、息の強さも各自違うのだから、自分に合ったものもそれだけ違うでしょう?と。  
秋田「スタインウェイピアノも同じ発想です。例えばピアノをお客様に選んでいただく場合、三台を並べることが多いのですが、それぞれ明るめの音だったり、こもつた音だったりと様々で、選ぶのはお客様次第となります。しかし、不思議と皆が同じものを選ばれる

ことはないのです。そういう国がやっている、そういうコンクールだと思つていただければ……。スタインウェイピアノと同じように、演奏も個性がいろいろあるから面白いのだと思います。答えは一つとか、一番速い子が勝ちとか、芸術はそういう世界ではありません。もっと幅があつていいのです。そういうのに順位を付けるのは難しいと思います。審査員の方々は苦労されるかもしれません(笑)。」